

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500060		
法人名	株式会社 下平		
事業所名	さくら悠輪苑		
所在地	岐阜県安八郡輪之内町四郷字新開288番地		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192500060-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所しても地域と切り離す事なく、住み慣れた地域で馴染みの方々と暮らして行ける環境を提供している。 外出にも力を入れていて、ホットステーションや認知症カフェ、馴染みの喫茶店やスーパー、美容院などにも積極的に行っている。面会も多く、1日平均3人の面会がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が希望することを叶えられるように、事業所の日課等はマニュアル化せず、利用者の意向を尊重したケアの支援をしている。大衆温泉・自宅の畑・ホットステーションやスーパーと一緒に出かけ、外気に触れて季節感や社会とのつながりを感じてもらっている。地域の認知症カフェの参加や行事に招待してもらい、クラフト教室を毎月開いて住民と触れ合う機会を増やしている。認知症の家族が集う場として「さくら会」を開設し、住民の相談場所としても開放している。認知症が安定し自宅に戻れた人や排泄が自立して、家族から感謝された言葉を受け職員も励みにしている。外部講師を招いた研修も継続的に行い、更なる向上に向けて努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で、理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践出来るように繋げている。	「安心な自分の住まいで尊厳ある思い通りの暮らしのできる空間の提供」を理念としている。それをもとに、今年度スローガン・職員の為の十戒・行動指針10ヶ条を作り、日々のケアで問いかけながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、お祭り、文化祭、敬老会、三世代交流会などに参加している。 輪之内町や安八町でも認知症カフェが開催され、積極的に参加している。	農園での作業や散歩時に住民と会話し、野菜などをもらっている。地域や事業所の行事には、利用者や住民が相互に交流できるようにしている。認知症家族への支援を始め、住民の相談場所として開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年の1月から毎月第二土曜日にさくらの会という事で「認知症家族の集い」を行っている。地域で認知症介護を在宅で行っている家族の支えになれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1度運営推進会議を行っている。地域との交流を図り、より良い施設運営に意見をいただけている。	町・社会福祉協議会・地域包括支援センターの職員や区長・民生委員等の参加を得ている。地域とのつながり方の意見を得て、認知症の家族が集う場として「さくら会」の開設や畑を借りて野菜作りにつなげた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課、地域包括支援センター、広域連合といつでも連絡がとれる関係性ができている。生活保護者の受け入れや地域の総合相談窓口としても機能している。	県が推進する事業に前向きに取り組む姿勢の評価を得て、町とは良い関係ができている。介護相談員や生活困難者も受け入れ、出身地の敬老会に参加できるようにするなど、連絡を密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中はしておらず、センサーで対応している。外に出ていこうとする利用者にはその都度理由を聞き、対応している。身体拘束の研修を行っている。	外に出かけることは普通の行動とし、後からそっと見守ったり一緒に歩いたりしている。出て行く人にも、優しく理由を尋ねる工夫をしている。隣接するスーパーへ出かけた時は、買い物やホットステーションでお茶を飲み気分転換できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がおこらないよう職員同士が言動、行動に注意を払っている。今年度から虐待防止の研修をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の中で権利擁護に関する制度の理解と活用ということで、利用者様のプライバシーの保護に関する研修もふまえて行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて説明が出来る。サービス内容や料金等について理解、納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族がいつでも管理者や職員と話ができるような関係性ができている。	家族が面会時に話しかけ、利用者の様子を伝えて意見を聞いている。ラインで写真や情報をやりとりする人もあり、気軽に言い易い関係にしている。利用者や家族の意見は、引継ぎ時などに伝え共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員から意見などを聞く機会を設けている。管理者1人で決める事なくみんなで話し合い方向性を決めている。	提案ノートや連絡ノートから出た意見をユニット別ミーティングで検討し、担当制の提案があり取り入れた。年2回の管理者との面談以外でも業務内や引継ぎ時など、リーダーや職員同士もいつでも言える関係を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員が、より働きやすい職場環境が作れるように努めている。半年に1回面談をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を外部に依頼し、毎月1回テーマにあった研修をおこなっている。施設外研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安八郡内の6つのグループホーム合同で交流会を今年から始めている。今は管理者クラスのみ参加だが今後は合同の勉強会等に繋げていきたいと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の事前面談に管理者とケアマネで出向き、直接本人の要望を聞いている。よりよい支援内容を一緒に考え、入居時のケアプランに反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時に現状の問題点をお聞きして対応と一緒に考えている。待機待ちの方には、定期的に連絡し現状を聞いている。さくらの会への参加に繋がっている方もみえる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の思いや現状等を確認し、必要としているサービス支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の事を知り、寄り添う努力を日々行っている。家族のように日々接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、本人の趣味や生活歴などを教えてもらいながら、事業所で行える取り組みや家族に支援してほしいこと検討、提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店や、スーパー、美容院や病院に行くように心がけている。入所する前よりも元気になっていると喜んで下さる知人の方もみえる。	ホットステーション・喫茶店・温泉・認知症カフェで馴染みの方との出会い楽しんだり、友人に来てもらったりしている。電話の支援や手紙や葉書を出している。旅行や商店などへ家族の協力を依頼する場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士会話をしている時は、パイプ役となっている。馴染みの関係もできていて、良い関係性が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたあともその後の経過を、家族や、ケアマネから情報を頂き、また困りごとがあるときなどは相談できる関係性ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの聞き取りセンター方式を活用し、本人の立場に立って検討している。	利用者の表情や顔色などを見逃さず、その人にあった声かけで思いや意向を把握している。起床時間が遅い人には、朝食をずらす支援をしている。酒が飲みたい人に湯を入れた徳利と杯にスルメを添えて出して雰囲気を楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、入居後の家族面会時に聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り等で、一人ひとりを把握している。特に心身状況の変化に関しては気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話でご本人の現状を伝えご家族の意向や本人の意向を聞いている。毎月のカンファレンスで問題を掘り下げて考えている。	家族や利用者の意向は日頃から聞いて、担当者や医療職の意見も踏まえて介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングしているが、毎月のミーティングで状況を確認している。状態変化時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝9時の申し送りや連絡ノートを活用して行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫茶店に行きたい。〇〇がほしい。自分の畑が気になる。といった突発的な訴えにも、柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協がおこなっているコミュニティカフェ（ホットステーション輪之内）や、地域包括がおこなっている認知症カフェに積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回～二回の往診に来ていただける病院が2つある。ご本人、御家族の希望があれば、今まで通院していた医療機関を利用している。	訪問診療を利用できる協力医に変更する利用者が多い。専門医の受診を家族に依頼する時は書面で情報を渡し、受診後報告を受けている。体調の変化や希望に応じて鍼灸治療を利用している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師1名と非常勤看護師1名いるのでそのつど連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換をおこなっている。管理者は頻繁に利用者さんに面会し、病院との関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際に透析の方の終末期に向けての今後の対応などを今本人、家族と話し合いをおこなっている。事業所で行える事を説明している。	状態に合わせて家族と医師・看護師も入れて話し合い、方向性を確認し職員とも情報を共有し支援している。家族が一緒に寄り添える和室も準備している。摂取量が少なくなっている人には、栄養剤や栄養ゼリーの補給で対処したり、点滴を受けたりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度から、介護人材確保対策事業補助金を利用し、介護職技術能力アップ研修を外部にお願いした。その中で11月に「緊急時の対応について。急変や事故発生時の備える・知識・心構え」と題して行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練をおこなって、内1回は夜間想定での避難訓練ができた。	夜間想定で利用者と一緒に初期消火訓練も入れた避難訓練を行っている。緊急時対応の研修を実施し、緊急薬品やオムツを常備している。近隣に居住する非番職員が協力しているが住民の参加が得られていない。	非常時に備えて薬やオムツ以外にも、水や食料の備蓄も望まれる。又、様々な機会に近隣住民にも、参加協力の依頼をしていただきたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての尊敬の気持ちを忘れず、言葉かけ等には十分注意をするよう日々のケアを通して職員に促している。排泄時、入浴時等のプライバシーの尊重も図っている。	利用者が意思を伝えやすい聞き方の工夫や希望する呼び名で声かけしている。援助が必要時は、さりげないケアを心がけ、本人の気持ちをできるだけ尊重している。居室入り口に名前の掲示をせず花の額を掲げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で信頼関係の構築のためコミュニケーションを重視することで、職員が身近な相談相手となっている。会話の中で行きたい所や食べたい物などリサーチして叶えてあげられるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操とおやつ前の体操は利用者全員で行っているが、それ以外利用者のペースで生活してもらっている。業務も決まっていないので利用者主体の生活になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の服選びを職員と共にし、本人が決定出来るように関わり、身だしなみの大切さを感じてもらっている。外出時にも、場所や天候等に合せ、職員と共に服を選び、お洒落の喜びを感じて頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の能力を活かした、食事の準備、後片付けを職員と一緒にしている。また、行事の時は利用者のリクエストに答えたメニューにするなど楽しみの時間になるよう努めている。	地元の米や畑でとれた野菜を使い、食事が楽しみとなるようにメニューを居間の白板に書いている。盛り付けやテーブル拭き等利用者ができる事をしている。介助する職員はいるがナツメロを聞きながらの食事となっている。	職員の休憩時間を確保する為もあるが、食事から広がる会話を楽しむなどの関わり方や雰囲気づくりに配慮が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックをしている。水分摂取を促したり、体調や口腔内の状態に応じ、お粥、刻みなどにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。ご自分で上手くできない方に対しては、スタッフにて介助や確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り排尿、排便の確認や排泄パターンを把握している。タイミングを見計らいトイレへの声かけ、誘導をしている。紙パンツから布パンツへと変わった方も多い。家族からも喜びと驚きの声があがっている。	利用者に合わせた時間でトイレ誘導し、日中はパッドを使用せず過ごす人もいる。車イスの人は二人介助でトイレ排泄している。夜間も希望で声かけしパッドの種類を変えて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂いたり食事でも食物繊維の多めのものを取って頂いたり工夫をしている。朝にヨーグルトや牛乳を飲んでいただき、状況に応じて主治医に相談して薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はいつでも入れるようにしている。ゆっくりと安心して入浴が出来る様に職員と1対1での入浴を行っている。入浴は週3日を目安に行っているが強制はしていない。	利用者が希望すれば日に2回入浴や早朝5時から夕方まで柔軟に対応している。大衆温泉の希望あれば一緒に出かけている。入浴剤の使用や足浴も希望に合わせている。嫌がる人には声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活が出来るよう支援しているが、一人一人の身体状況・生活習慣に合わせて介助をしている。1日中、車椅子に座って過ごす事の無いように気にかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はカルテにはさまれておりいつでも確認が取れるようにしてある。服薬ミスの無いように服用時には名前や日付の再確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や暮らし方・楽しみ・張り合い等を考慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には、積極的に散歩へ出かけられるよう支援している。又、近所のスーパーでの買い物に付き合っていたり、喫茶店にも定期的に行っている。最近では、百梅園へ梅を見に外出した。	車イスの人でも、その日の希望でいつでも外出できる支援をしている。地元神社・お千代保稲荷・コスモス畑・養老など季節に合わせたドライブに出かけている。出身地の夏祭りや行事にも参加できるようにしている。家族の協力を得て一泊旅行に行く人もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思を尊重して、財布を所持したり外出時に使える様に支援している。買い物をする際はご自分の手で支払いをしていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話や手紙など外部と連絡がとれるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑すぎず、寒すぎないように心がけている。居室には温度計を設置して、快適な空間を作るように心掛けている。	花壇やプランターに季節の花を植え、居間にも花を活け季節感を出し、軒先に洗濯物を干して生活感があふれている。利用者の書道・クラフトカゴ・折り紙作品などを飾り、雑誌や新聞を読んだりナツメロを流し口ずさんだりして、思い思いに過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテレビを用意し、会話を楽しんだり、くつろげる共用空間作りをしている。リビングにもいくつかの空間を作り好きな所で過ごせるように選択の場を増やした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いして御家族様の写真などを持ってきていただき飾っている。できるだけ、自宅での生活感を継続していただけるよう支援している。自宅で飼っていた犬の変わりにぬいぐるみを家族に持ってきていただき、落ち着いて暮らされている。	使い慣れた毛布やベッドカバーを使い、時計・カレンダー・服や帽子を掛けている。思い出の作品・家族写真や勤務時のメダルを飾っている人もいる。居室で編み物をしたり、自宅から飼い犬を連れてきてもらい懐かしんだりして、居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が主役となれる支援を目指し、在宅でしていた事が出来るように、職員は見守り・思い出す手助けをしている。それにより、この1年で2名の方がグループホーム→在宅に復帰する事ができた。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500060		
法人名	株式会社 下平		
事業所名	さくら悠輪苑		
所在地	岐阜県安八郡輪之内町四郷字新開288番地		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&aj_gyosyoCd=2192500060-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所しても地域と切り離す事なく、住み慣れた地域で馴染みの方々と暮らして行ける環境を提供している。 外出にも力を入れていて、ホットステーションや認知症カフェ、馴染みの喫茶店やスーパー、美容院などにも積極的に行っている。面会も多く、1日平均3人の面会がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で、理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践出来るように繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、お祭り、文化祭、敬老会、三世代交流会などに参加している。 輪之内町や安八町でも認知症カフェが開催され、積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年の1月から毎月第二土曜日にさくらの会という事で「認知症家族の集い」を行っている。地域で認知症介護を在宅で行っている家族の支えになれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1度運営推進会議を行っている。地域との交流を図り、より良い施設運営に意見をいただけている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課、地域包括支援センター、広域連合といつでも連絡がとれる関係性ができている。生活保護者の受け入れや地域の総合相談窓口としても機能している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中はしておらず、センサーで対応している。外に出ていこうとする利用者にはその都度理由を聞き、対応している。身体拘束の研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がおこらないよう職員同士が言動、行動に注意を払っている。今年度から虐待防止の研修をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の中で権利擁護に関する制度の理解と活用ということで、利用者様のプライバシーの保護に関する研修もふまえて行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて説明が出来る。サービス内容や料金等について理解、納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族がいつでも管理者や職員と話ができるような関係性ができている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員から意見などを聞く機会を設けている。管理者1人で決める事なくみんなで話し合い方向性を決めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員が、より働きやすい職場環境が作れるように努めている。半年に1回面談をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を外部に依頼し、毎月1回テーマにあった研修をおこなっている。施設外研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安八郡内の6つのグループホーム合同で交流会を今年から始めている。今は管理者クラスのみ参加だが今後は合同の勉強会等に繋げていきたいと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の事前面談に管理者とケアマネで出向き、直接本人の要望を聞いている。よりよい支援内容を一緒に考え、入居時のケアプランに反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時に現状の問題点をお聞きして対応と一緒に考えている。待機待ちの方には、定期的に連絡し現状を聞いている。さくらの会への参加に繋がっている方もみえる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の思いや現状等を確認し、必要としているサービス支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の事を知り、寄り添う努力を日々行っている。家族のように日々接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、本人の趣味や生活歴などを教えてもらいながら、事業所で行える取り組みや家族に支援してほしいこと検討、提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店や、スーパー、美容院や病院に行くように心がけている。入所する前よりも元気になっていると喜んで下さる知人の方もみえる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士会話をしている時は、パイ役となっている。馴染みの関係もできていて、良い関係性が築けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたあともその後の経過を、家族や、ケアマネから情報を頂き、また困りごとがあるときなどは相談できる関係性ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの聞き取りセンター方式を活用し、本人の立場に立って検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、入居後の家族面会時に聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り等で、一人ひとりを把握している。特に心身状況の変化に関しては気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話でご本人の現状を伝えご家族の意向や本人の意向を聞いている。毎月のカンファレンスで問題を掘り下げて考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝9時の申し送りや連絡ノートを活用して行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫茶店に行きたい。〇〇がほしい。自分の畑が気になる。といった突発的な訴えにも、柔軟に対応している。		

さくら悠輪苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協がおこなっているコミュニティーカフェ（ホットステーション輪之内）や、地域包括がおこなっている認知症カフェに積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回～二回の往診に来ていただける病院が2つある。ご本人、御家族の希望があれば、今まで通院していた医療機関を利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師1名と非常勤看護師1名いるのでそのつど連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換をおこなっている。管理者は頻繁に利用者さんに面会し、病院との関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際に透析の方の終末期に向けての今後の対応などを今本人、家族と話し合いをおこなっている。事業所で行える事を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度から、介護人材確保対策事業補助金を利用し、介護職技術能力アップ研修を外部にお願いした。その中で11月に「緊急時の対応について。急変や事故発生時の備える・知識・心構え」と題して行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練をおこなって、内1回は夜間想定での避難訓練ができた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての尊敬の気持ちを忘れず、言葉かけ等には十分注意をするよう日々のケアを通して職員に促している。排泄時、入浴時等のプライバシーの尊重も図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で信頼関係の構築のためコミュニケーションを重視することで、職員が身近な相談相手となっている。会話の中で行きたい所や食べたい物などリサーチして叶えてあげられるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操とおやつ前の体操は利用者全員で行っているが、それ以外利用者のペースで生活してもらっている。業務も決まっていないので利用者主体の生活になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の服選びを職員と共に行い、本人が決定出来るように関わり、身だしなみの大切さを感じてもらっている。外出時にも、場所や天候等に合せ、職員と共に服を選び、お洒落の喜びを感じて頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の能力を活かした、食事の準備、後片付けを職員と一緒にしている。また、行事の時は利用者のリクエストに答えたメニューにするなど楽しみの時間になるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックをしている。水分摂取を促したり、体調や口腔内の状態に応じ、お粥、刻みなどにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。ご自分で上手くできない方に対しては、スタッフにて介助や確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り排尿、排便の確認や排泄パターンを把握している。タイミングを見計らいトイレへの声かけ、誘導をしている。紙パンツから布パンツへと変わった方も多い。家族からも喜びと驚きの声があがっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂いたり食事や食物繊維の多めのものを取って頂いたり工夫をしている。朝にヨーグルトや牛乳を飲んでいただき、状況に応じて主治医に相談して薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はいつでも入れるようにしている。ゆっくりと安心して入浴が出来る様に職員と1対1での入浴を行っている。入浴は週3日を目安に行っているが強制はしていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活が出来るよう支援しているが、一人一人の身体状況・生活習慣に合わせて介助をしている。1日中、車椅子に座って過ごす事の無いように気にかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はカルテにはさまれておりいつでも確認が取れるようにしてある。服薬ミスの無いように服用時には名前や日付の再確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や暮らし方・楽しみ・張り合い等を考慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には、積極的に散歩へ出かけられるよう支援している。又、近所のスーパーでの買い物に付き合っていたり、喫茶店にも定期的に行っている。最近では、百梅園へ梅を見に外出した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思を尊重して、財布を所持したり外出時に使える様に支援している。買い物をする際はご自分の手で支払いをしていたらいい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話や手紙など外部と連絡がとれるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑すぎず、寒すぎないように心がけている。居室には温度計を設置して、快適な空間を作るように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテレビを用意し、会話を楽しんだり、くつろげる共用空間作りをしている。リビングにもいくつかの空間を作り好きな所で過ごせるように選択の場を増やした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いして御家族様の写真などを持ってきていただき飾っている。できるだけ、自宅での生活感を継続していただけるよう支援している。自宅で飼っていた犬の変わりにぬいぐるみを家族に持ってきていただき、落ち着いて暮らしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が主役となれる支援を目指し、在宅でしていた事が出来るように、職員は見守り・思い出す手助けをしている。それにより、この1年で2名の方がグループホーム→在宅に復帰する事ができた。		